

時の封土



プロローグ

「はあはあ…」

洞の中に、乱れた息づかいが、戦靴の響きと不規則に入り乱れた。

いったい、どうしてこうなってしまったのだろう。

いや、そもそもなぜ自分たちは追われることになったのか。

どこで自分たちは間違ったのか。いや、間違ったわけではないのか。

混乱した頭で、彼は考えた。

一緒にやってきた仲間とは、とっくにはぐれた。

先ほど不快な——男とも女ともしれぬ悲鳴が聞こえたような気がする。

もしかして、あいつがやられたのか。

もう、生き残っているのは自分だけなのかもしれない。

いや、それさえもわずかな時差であって、行きつくところは同じなのか。

死——

歴戦の戦士である彼は、冒険の中で何度もその言葉と向き合ったはずだ。

そして、畏れることもなかった。

しかし——今は、怖い。恐ろしい。

今、知ってしまった秘密をそのままに、地底の奥底で逝ってしまうことが、限りなく恐ろしい。

「ソーサリアン、ここにいたのですね」

嗤いを含んだ声が、眼前をふさいだ。

次いで、網膜を灼き尽くす光条が——彼の身体を引き裂いていく。

彼は、死んだ。



冒険の目的

不明。

自分たちはどこにいたのか、何をしていたのか。気づいた時、彼らはすべての記憶を喪っていたのである。どこへ向かえば良いのか、何をすれば良いのか、まずはそれを見出すところから冒険が始まるのだ。

- 本シナリオでは、パーティは3人編成である必要があります。
- 想定難易度は、シナリオレベル 5（最高）を想定しています
- プレイ時間は 1.5H 程度を想定しています。



本シナリオのポイント

- 最初は、冒険の目的すら判らない状態で進んでいくシナリオです。ストーリーが進んでいくにつれて、断片的に謎が明かされていく過程を楽しんでいただければと思います。
- ザナドゥの世界（名前）を微妙にリミックスした設定にしています。原作とは直接の関連はありませんが、オールドゲーマーには「お、この固有名詞は！」的な楽しみ方をしてもらえればと思っています。
- 別シナリオ「脱出」と同様、iOS 版ならではのシカケを鑲めています。ホントにできるのかなと思うものもあったのですが、自分で制限してしまうのも勿体ないと思われ、まずは制限なく盛り込んでいます。よって、なるべくそれらの機能を実装できなくても、シナリオの流れそのものには影響は及ぼさないように配慮しています。



舞台

全体のマップ構造は、map.ppt P.1 を参照してください。

※今回は比較的シンプルなマップ構造であることから、シカケの補足説明のみで、細部マップは省略しております。ご了承ください。



ストーリー

[1] スタート（前）地点。「ドラゴンとたたかう」の洞窟。

最初から、キングドラゴンが目の前に。

ソーサリアン | キングドラゴン…！

無条件に戦闘開始。

基本的にキングドラゴンには勝てないが、しばらく戦い続けると…

キングドラゴンがひときわ大きなブレスを吐き出してくる。

ソーサリアン | う、うわあああ！

画面暗転。

[2] 気が付くと、ソーサリアンは深い夜の森の中にいる（本当のスタート地点）。

ソーサリアン 夢——？

目の前では、小さな木が大木になってたちまち老樹になってしまう。

また、粉雪が散っているのに天空には星々がきらめいており、木々は狂ったように花を咲かせている。赤い稲光が奔る中、砂塵が時折、霧のように上空を行き過ぎる背景。

解説 | ここはどこだろう。

どこか洞窟の中を逃げていたような記憶があるが、なにも思い出せない。

ソーサリアン | これは——？

解説 | 気が付くと、片刃の長剣をしっかりと握っていた。

自分の持ち物ではないことは確かだが、どこで手に入れたのだろう。

ソーサリアン | …こうしていても埒が明かないな。先に進もう。

[3] 森の中を進んでいくと…

解説 | 壮年の戦士が魔物の群れに襲われている！

魔物をすべて倒すと、戦士との会話。

戦士	敵情を視察に来たつもりが部下とはぐれてしまった。 すまぬが、足を少々捻ってしまった。我が陣まで連れて行ってはもらえぬか。
解説	人に命令することに慣れた口調だ。 自己紹介もないのは、自分を知っていて当たり前という自信のようにも見える。
ソーサリアン	失礼ですが、あなたは…？
解説	戦士は眉を上げた。案の定、不興を買ったようだ。 しかし、戦士は思い直したように、厳かに答えた。
戦士	クーブラ=カーンである。
ソーサリアン	クーブラ=カーン——どこかで聞いた名前だが…
カーン	さあ、参るぞ。

【4】以降、 アイテムとしてカーンを仲間に加え、森→川→断崖絶壁を超えながら、安全な場所にまで連れて行くクエスト。

解説	<p><元気なカーン>を手に入れた。</p> <p><元気なカーン>は、敵の攻撃を受けたり、罠にかかったり、あるいは、ステージ通過に時間がかかりすぎると、<弱ったカーン>→<死にかけたカーン>→<一握りの砂>へと変化していくぞ。</p> <p><一握りの砂>に変わってしまう前に、安全な地まで辿りつけ。</p> <p>弱ってきたカーンには、途中で入手できる<マッシュルーム>を与えることで、状態を回復できる。アイテムリストをチェックしながら進め。</p>
----	---

マッシュルームは、木の上や辿りつきにくい崖の縁などに時折生えている。

<一握りの砂>になった時点で Game Over。

◆森

紅玉の謎のような上下アップダウンのあるステージ。

茂みや木の洞に抜け道が用意されていたり、毒槍の罠があったりするので、注意深く探索する必要がある。

◆川

黒く濁った水が毒々しいステージ（斜め上視点で手前／奥への移動も可能）。

小舟が用意されているので乗ると、自動的に進んでいく。

解説 | <あいふおん>を左右に傾けると、船の速度を調整できるし、上下に傾けると、手前／奥に移動できるぞ。
水中から飛び出してくるモンスターや、渦巻きを避けながら進んでいこう。
船は一定のダメージを受けると、壊れてしまうぞ。

モンスターは船の上に乗って攻撃もしかけてくるので、適宜倒していく。
川の最後は滝になっているので、落ちる前に手前の岩棚に飛びつく必要がある。

◆断崖絶壁

縦スクロールのステージ。ジャンプを繰り返して岩棚を飛び移りながら、上に登っていく。
岩棚の一部には、逆さつららもあり、落下すると大ダメージ。
また、中空からはブルードラゴンが竜巻を起こしながら襲ってくるので要注意。

[5] 以上のステージを抜けると、カーンの陣営に辿りつく。

ソーサリアンとカーンを見つけると、中性的な顔立ちの女(?)が近寄ってくる。

若い女性	王よ、何処におられたのか。
	護衛の騎士たちが森で惨殺されていたとの報告を受け、心配申し上げて…
カーン	ラファロか。
	この者たちに助けられ、無事に陣営まで辿りつくことができた。
	心配には及ばぬ。
女	なれど、王よ…
カーン	おけ。
	そなたら、ソーサリアン——と申したな。
	ここは余の陣営だ。まずは、ゆるりと休んでいくと良い。
	余は、明日の戦の準備があるゆえ、これで失礼するぞ。

カーンは足早に去っていく。

その後、女性に話しかけると…

女性 | 私は、金星神ラファロ。陛下には幼い頃からお仕えしているもの。
戦時ゆえ、陛下も苛立っているようですが、ご無礼はお許してください。

解説 | 疑問はたくさんあるが、まずは状況を掴むのが先だ。

ソーサリアン | 戦時とは…その、どういうことでしょうか？

ラファロ	もちろん、ザナドゥを統治する 2 人の王の戦の事です。 カーン陛下は、いよいよガルシウス王をシャングリ＝ラ城まで追い詰めました。 数十年にわたった内乱も、いよいよ終わりを告げるでしょう。
ソーサリアン	（内乱…ザナドゥ…？ガルシウス王——？ 我々はいったいどこへ迷い込んでしまったというのだろうか？）
ラファロ	私も、そろそろ部隊に指示を出さなくてはなりません。 東のテントにあなた方が休める場所も用意させますので、自由にお使いください。

【6】ラファロと別れた後、陣営内の兵士たちと会話。

兵士	ザナドゥは、光の王カーン陛下と、闇の王ガルシウスによって統治されているのだ。
兵士	光の王カーン陛下、万歳～！
兵士	闇王ガルシウスを斃すのだ！
兵士	明日はいよいよ決戦だ。お前たちも早く休んでおいた方がいいぞ
木星神	はじまりは、カーン王の＜光明の都＞建設の計画であったのだ。 ザナドゥの四囲は、列強が刻々と勢力を強めている。 列強の覇権に対抗するには、ザナドゥの近代化が必要と考えられたのだ。
ソーサリアン	それと、内戦にどのような関係が…？
木星神	性急にすぎたのだ。 光の版図が拡大することは、闇の版図を侵食すること。 都の建設によって、棲みかを逐われた闇の眷属は、光の民を襲い始めた。 そこからは、推して知るべしであろう。
水星神	なぜ、このようなことになってしまったのか… カーン陛下もガルシウス陛下も、このザナドゥを愛する心は同じ。 ただ、進むべき道があまりに違いすぎたのだ。 カーン陛下は来たるべき時代に変化を選び、ガルシウス陛下は因襲を優先した。 それだけのことなのだ。
ソーサリアン	話し合いは…できなかったのですか？
水星神	何度かは対話の機会もあったのだ。 しかし、一度流された血は、容易には洗い流せぬ。 対話を…もはや民が許さなかったのだ。 民の怒りを、王は負わねばならぬ。 ガルシウス王は、いち早く光との全面对決を決心されたのだ。 戦とは、そういうものなのだ。

太陽神 | 決定的であったのは、我ら七惑星の神々の決定であったのかもしれぬ。
天の星々を司る我ら七惑星神は、王たちの戦に選択を迫られた。
国家を二分する争いに、中立はもはやあり得ぬ。

太陽神 | 結果、カーン陛下に従ったのは、我太陽神をはじめ、火星神、水星神、木星神、金星神の5名。ガルシウス陛下に従ったのは、月神、土星神のみであった。
我ら神の力は、両陛下とても軽視はできぬ。
ガルシウス陛下は、その時点で決定的に追い詰められたのだ。
ガルシウス王が死戦を覚悟したのは、その時であろう。

火星神 | 光の王と闇の王が、互いに寄り添う時代は終わろうとしているのだ。
四囲の脅威に、今のザナドゥでは対抗しえぬ。
新たな都——＜光明の都＞ペンタウァはもうすぐ完成しようとしているのだ。

ソーサリアン | （ペンタウァ——ペンタウァ、だと…？）

火星神 | カーン王のもとで、今こそ新たな＜剣と魔法の都＞が築かれるのだ。

カーン | おお、お前たちか。
我が陣営に、手練れの勇者が加わってくれたことは心強い。
明日の戦いは期待しているぞ。

すべての人物／神と話し終えると。

ソーサリアン | いったい、この世界はどうなって…？
七惑星の神々は地上を歩いているし、ペンタウァはまだできていないという…
ガルシウスと、キングドラゴン＝ガルシス…なにか関係があるのだろうか。

そのあと、テントに入ると…

ソーサリアン | いつのまにか、我われも明日の戦には参加する話になっているようだ。
明日に備えて、休んでおいた方が良さだろう。

画面暗転。

【7】 場面変わって、再びドラゴンとたたかうの洞窟。

ソーサリアンが洞窟の中で、年齢不詳の女魔法使いと対峙している。

ソーサリアン | @\$%#、あなたがなぜ…このようなことを——？
女 | あなた方は触れてはならぬものに触れてしまったのです。
&\$+*/の、触れてはならぬ古の間に…
忘れよ…といっても無理でしょう。
…なれば——神の国まで秘密を抱いておいでなさい。

女から強烈な光の矢が発せられる！

ソーサリアン | う、うわああああ！

画面は暗転。もとのテントの中に戻る。

ソーサリアン | 夢——だったのか…？

[8] テントから外に出ると、カーンが独り立っている。

カーン | お主らか。余は…正しいのであろうな
ソーサリアン | ……？
カーン | 余は、闇の王を——ガルシウスの滅亡を欲しているわけではない。
ただ、＜光明の都＞は列強の侵略を防ぐ堤防として是が非にも必要なものなのだ。
光と闇とが寄り添うだけの平和など…、もはや過去のものだというのに。
列強が侵攻を進めれば、ザナドゥにはより多くの血が流れるのがなぜ解らぬ。
ソーサリアン | 王よ…
カーン | 余は、ガルシウスに恨みなどない。
我が民が傷ついたこととて、ガルシウスの真意でないことくらい解っている。
ただの一言、昔のようにすまぬ、と一言言ってくれば…
この戦は止められたのだ。
ソーサリアン | 今からでも、遅くはないと思いますが…
カーン | 遅いな。
もはや余の軍は、夥しい闇の眷属を屠り、殲滅した。
奴もまた、戻れるとは思っておるまい。
余にできることは、明日、ガルシウスの墓標を決めてやることだけだ。
…繰り言であった。往け。

[9] 更に場面変わって、決戦当日。

解説 | リルヴァン平原——カーン軍とガルシウス軍との最終決戦場。

クーブラ＝カーンが諸将を前に演説。ソーサリアンも列席。

カーン | 諸卿の努力で、ガルシウス軍もいよいよシャングリ＝ラまで追い詰めた。
我らの勝利までは、あと一歩である。諸卿の奮戦奮闘を期待する。
以上！

兵士 1 | おおおおお！

兵士 2 | カーン王、万歳！

兵士 3 | ガルシウスを斃せ！闇の眷属を追い散らすのだ！

カーンがソーサリアンに近づいてくる。

カーン | ソーサリアンよ、卿らには城正面の指揮をお願いしたい。
そなたたちに預けられる兵は、騎兵 500、歩兵 1000、槍兵 500、弓兵 200 だ。
それぞれ 100 単位に部隊指揮官を任命してあるゆえ、敵情に応じて配置してほしい。

ソーサリアン | 承知。

カーン | 頼むぞ。

以降では、ポーカーのようなボードが表示される（map.ppt P2）。自陣に兵士を配置した後、順次、規則に沿って兵を動かしていく。

基本は、槍兵＞騎兵＞歩兵＞槍兵という関係にある。1 ターンでひとつの兵に指示を出すことができ、兵同士がぶつかると、力関係が優先する方が勝ちというルール。

敵将を斃すとクリア。ソーサリアンが倒されると Game Over。

【10】勝利すると…

カーン | よし、ガルシウス軍が敗走していくぞ！

ソーサリアン | カーン王、城門が閉じられてしまう前に、我われが——

カーン | 待て！ガルシウスの引導は…余の責任である。

クーブラ＝カーンがパーティに加わる。

敵モンスターが大量に徘徊している草原を斬り開きながら、城門へ。

このシーンはモンスターをザックザック斬り伏せる「無双」のような爽快感をだせれば。

可能な範囲で最大限、モンスターを大量に配置できれば、と考えます。

[11] 城門に入ろうとすると、地面が大きく揺れて…

ソーサリアン	おお…城が——！
解説	城が崩れ、塔頂にはドラゴンの首が見えている。 城の下層部から繋がっているとすれば、どれだけの大きさなのだろうか
カーン	キングドラゴン＝ガルシス——ガルシウスの真の姿だ。 奴も、いよいよ決戦の覚悟を決めたということだな。

城門を潜ると、背後で門が閉じてしまう。

ソーサリアン	退路が…！
カーン	もとよりガルシウスを斃すまでは戻るつもりもなし。 退路など、もとより必要ない。

以降は、シャングリ＝ラ城 3 層を走破していく。

[12] 城第 1 層。

カーン	城が崩れ始めているようだ。 上層への階段が埋もれてしまう前に、先に急ごう！
解説	画面上のカウントダウンがゼロになる前に、第 1 層を抜けろ。 時間が経つにつれて、地面の穴も多くなってくるので要注意だ。

画面右上にカウントダウンの時計が表示される。300 秒以内に 1 層を抜けること。
穴に落ちてしまうか、時間を超過してしまうと（1 層が埋もれ）Game Over。

[13] 時間内に第 1 層を抜けると、大広間に出る（カウントダウンはここで終わり）

大広間では、土星神が待ち受けている。

土星神	土星神ダームである。
カーン	土星の神よ、なぜ我を見捨て、暗黒竜に手を貸されるか。
土星神	光の王よ、それは愚問というものではないか。 それよりも我は問いたい。なぜ闇を忌む。 光と闇のバランスを崩してまで、何を望むか。
カーン	忌んでいるのは闇ではない。変わろうとせぬ者たちよ。 安定を崩しているのではない。新たな発展を望むのみ、他意はなし。

土星神 | 詭弁なり。

[14] 土星神&ガルシウスの尻尾との戦闘開始！

土星神&ガルシウス（尻尾）との戦いは、引き続き足場が崩れ、天井が落ちてくる中での戦闘となる。戦闘領域は最初は3画面分あるが、時間の経過と共に足場／天井が崩れ、移動できる範囲が小さくなっていく。完全に部屋が埋もれる前に勝利しなければならない。足場は随時崩れる。

天井は一定時間おきに崩れ、左から半画面単位に大広間が埋もれていく。

◆土星神

土星神は4体に分身して空中を飛びまわりながら、襲い掛かってくる。それぞれが物理攻撃（黄）、毒（赤）、呪い（紫）、闇（黒）の魔法弾を撃ってくる（闇に当たると一時的に画面が暗転して敵を見失う）。

ただし、本体は「闇」を撃ってくるものだけで、他の分身には攻撃は効かない。

◆ガルシウス（尻尾）

尻尾が画面右から横なぎに襲ってくるので、こちらも避けながら戦う必要がある。尻尾は最初は1画面くらいの長さがあるが、攻撃を与えるごとに短くなっていき、完全になくなったところで勝利。

尻尾は時折ソーサリアンを絡め取り、動きを封じてしまうので要注意（地面すれすれを一定時間おきに薙いでくるだけなので、岩棚に上るか、画面左に避ければ問題ない）。

絡め取られた場合には、以下のメッセージ。

解説 | <あいふおん>を振って、ガルシウスの尻尾から逃れろ！

iPhone を上下に振ると尻尾の呪縛は解ける。一定時間内に尻尾から逃れなかった場合には尻尾に握りつぶされて大ダメージ。

土星神&尻尾を両方倒すと、大広間の奥にある上層部への扉が開く。

カーン | 土星神よ、通らせてもらうぞ。

土星神 | 闇なくば光は存在しえぬ。聡明なる王にはなぜそれが解らぬか。

カーン | 原因と結果をたがえるな。光ありきなのだ。

光なくば闇は存在しえぬ。しかし、その逆はない。

土星神 | ……

〔15〕 上層部への階段を潜ると、画面変わって、三度ドラゴンとたたかうの洞窟。

倒されたキングドラゴン＝ガルシスの屍を前にするソーサリアン。

ガルシス		ソーサリアン——我に情けを。 ＜%\$&##＞の呪縛から我を解き放ち賜え… &\$+*/は何千年もの永きにわたって、我から、我が闇の眷属たちからカオスの 力を搾取してきたはずだ。もう…終わりにしてくれ——！
ソーサリアン		…？
ガルシス		＜%\$&##＞に縛されし我を、我を…

画面暗転。再びシャングリ＝ラ城。

カーン		どうしたソーサリアン、ぼうっとするのはまだ早いぞ？
ソーサリアン		……

〔16〕 ガルシウス城第 2 層。

第 2 層に抜けると、第 1 層は崩れており、戻ることはできない。

ソーサリアン		また一層、鳴動がひどくなってきたようだ…うわっ！
--------	--	--------------------------

城が揺れて、床が傾く！

カーン		＜あいふおん＞を左右に傾けてバランスを取るのだ！
解説		床の傾きは、＜あいふおん＞の左右の傾き具合で調整できるぞ。 あまり急角度になってしまうと、下層部に落下してしまうので要注意だ。

既に穴がいくつも空いた床を進んでいくアクション。床はランダムに傾くのでバランスを崩さないように iPhone を調整しながら落ちないように（落ちた場合はそのまま Game Over）。

〔17〕 しばらく進んでいくと、大広間にでる。

中では、月神が待ち受けている。

ソーサリアン		月神ヴァリアか——！
--------	--	------------

ヴァリア	月は光を受けて輝くもの。されど、光の中では輝くことはできません。 闇の中にありてこそ、我が月の力も生きながらえることができます。 光の王は、そんな理すらお判りにならなくなってしまったのか。
カーン	月神よ、であれば、闇も変われば良いのだ。 時代は移ろい、世界も人も変わらんとしている。光と闇の在り方さえも。 皆が変わる中で変わらねば、変わらなかったものこそが変わったということなのだ。
ヴァリア	正論かもしれません。 しかし、なぜ陛下にはお判りになりませぬか。 その正論こそが、ガルシウス陛下を追い詰められたのだということ。

[18] 月神&ガルシウス（鉤爪）との戦闘開始！

月神&ガルシウス（鉤爪）との戦いは、引き続き足場が傾く中、バランスを取りつつの戦闘となる。

◆月神

月神は、すべての魔法攻撃を跳ね返してくるので、魔法の利用は厳禁（回復系魔法も月神自身のものとしてしまう）。

自分自身の攻撃力はそれほどないが、モンスターを召喚してくる。召喚されたモンスターを斃すと、月神が空中から降りてくるのでそこを物理攻撃。しばらくすると、また空中へ逃れてしまう。

水関係の魔法を得意とし、上から滝を降らせてくる。滝はそれ自体は大したダメージではないが、足場をランダムに破壊すると共に、滑りやすくなる（=ちょっとした傾きで落ちてしまう）ので要注意。

◆ガルシウス鉤爪

巨大な両腕（鉤爪）が交互に画面の両側から伸びてきて物理攻撃（毒属性）。

鉤爪はそれぞれ画面の左（右）半分を占めるので、岩棚を使って上下、左右に逃れる必要がある。

月神&鉤爪を両方倒すと、大広間の奥にある上層部への扉が開く。

カーン	月神よ、余を信じよ。七惑星の神々を悪いようにはせぬ
月神	……

[19] 城第3層（屋外階）

ソーサリアン	これは…
カーン	随分崩れているな。慎重に、油断せずに行こう。
解説	マップは手前／奥にも続いているぞ。マップの向きを切り替えるには、＜あいふおん＞の向きを変えてみよう。

マップのシカケは map.ppt P3 を参照。立体的な構造になっており、手前／奥に移動するには iPhone の向きを変えることで、マップの視点も 90° 回転する必要がある（方位センサー）。穴の開いていない足場を探しながら、進んでいかなければならない。

回転しながら進んでいくので、要領を掴むまではマッピングも難しいと思われる。

※他の層と同じく、穴に落ちてしまうと Game Over。

【20】城の中央部分まで進むと、ガルシウス（頭部）が待ち受けている。

ガルシウス	カーン、か…
カーン	卿とは争いたくないのだ。 もう一度問おう。 矛を収める気はないのか、ガルシウス。
ガルシウス	我が民の死屍を踏み越えたその身で、なにをいけしやあしやあと。 ザナドゥの安定を先に崩したのは、卿ではないのか。
カーン	ザナドゥの四囲はあまりに危うい。
ガルシウス	ロマンシア、イース、イセルハーヤの蛮族どもか。 齒牙にもかけぬわ。
カーン	否。彼らは、もはや蛮族ではない。 歴とした文明を備えた国家であり、我われと対等に国交を求めてきている。 我われが交わるに値せぬ、畏れるに足りぬ存在であると見なされれば、彼らはいずれザナドゥの大地を蹂躪するであろう。 もはや因襲に倣い、光と闇とで区々とバランスの調整を図っている場合ではない。 光が、闇が、それぞれに未来を拓いていかねばならぬ。 それが＜光明の都＞ペンタウアの建設なのだ。
ガルシウス	そのような巧言は、光の民どもが我が版図を侵食する前に弄すべきであったな。 カーン、カーン、クーブラ＝カーン、すべては遅いのだよ！

【21】ガルシウス（頭部）との戦闘開始！

動けるのは現在の足場（画面）固定。ガルシウスは足場の四方の穴に引っこんでは現れ、焰の玉を吐き出してくる。よって、焰が飛んで跳んでくる方向から推察して、頂上部のマップと同じく iPhone の向きを変えて、ガルシウスのいる方向を表示させる必要がある。

ガルシウスに攻撃できる状態になると、ソーサリアンに重なってドラゴンスレイヤーのアイコンが表示されるので…

解説	ドラゴンスレイヤーの力をガルシウスに投げつけろ！ ドラゴンスレイヤーのアイコンをタッチ操作で、パチンコをはじくようにすることで、斬撃を発射できるぞ。
----	---

※ドラゴンスレイヤーの力以外はガルシウスには無効。

ガルシウスのいる方角からは、小型のブルードラゴンが複数降ってきて、それらに当たると、斬撃は弾かれてしまうので要注意。また、しばらく攻撃が当たらないでいると、ガルシウスの体力はどんどん回復していく。

ガルシウスの両目から時折照射される呪い効果のレーザーにも要注意。

[22] ガルシウスを斃すと…

ガルシウス	うおおおお…我を斃して、カーン、貴様はなんとする。 闇なき光の世界を築く、と。そんなことができるとでも？
カーン	思ってはおらぬよ、ガルシウス。 思ってはおらぬから…
解説	その時、クーブラ＝カーンの双眸が妖しく耀った。
カーン	卿には、カオスへ、＜時の封土＞へと堕ちてもらう。 暗黒竜キングドラゴン＝ガルシウスとして、闇の王として、永遠に己の闇を護るが良い。
ガルシウス	……！
解説	ガルシウスは再び咆哮した。 その時、周囲に七色の光がたなびいた。七惑星神である。

周囲に、七惑星の神々が姿を現わす。

太陽神	我は光源なり。故に、カーン王を支持する。
火星神	闇の王は敗れた。歴史を決めるのは勝者の権利である。
水星神	光と闇の関係には、熟考の必要がある。 結論は出ぬが、しばしは我もカーン王の国土を護るであろう。
木星神	新たな時代の始まりだ。

金星神	静と安定の時代は、剣と魔法の——激流の時代へ移ろうことでしょう。 静と動、それもバランスのひとつの形。
土星神／月神	敗れたからには、新たな王クーブラ＝カーンに忠誠を。
カーン	ペンタウァ王国の成立を、ここに宣言する。
解説	クーブラ＝カーンは厳かに告げた。
ソーサリアン	カーン王、いったいなにを…！
カーン	未来へ歩み出したくないのであれば、それも良し。 なれば、カオスの中で時の流れから切り離されて、五象の魔と共に、永遠とこの時代を繰り返すが良い。そして、この敗北を繰り返すのだ。 地で滞留せしカオスの力は、そのまま我がペンタウァの血肉となるであろう。
ソーサリアン	カーン王、それが…それが、王たるものの仕打ちか——！ 敗者を永遠の屈辱に縛するなど。あってはならぬこと！
カーン	ガルシウスの、否、ガルシスの選んだ道だ。
ガルシウス	……！
解説	ガルシウスは三度咆哮した。 しかし、それは既に敗者の断末魔にすぎなかった。
ソーサリアン	カーン王…！
解説	その時、ソーサリアンの脳裡に声が響いた
謎の声	ソーサリアン、今だ！ 我が牙より出で、カオスの黒き焰で鍛えし、＜ムラサメブレード＞——王殺しの剣でガルシウスを貫くのだ。＜時の封土＞に縛されし我が分身を解放するのだ！
ソーサリアン	ガルシウス…否、ガルシスなのか——！
解説	その時、腰の＜ムラサメブレード＞が鳴動し、強い光を放った。
七惑星の神々	王殺しの剣か——！
カーン	ソーサリアン、裏切るか！
ソーサリアン	裏切りではない、敗者の…これがせめてもの尊厳だ！
カーン	七惑星の神々よ——彼奴等を止めるのだ！

【23】七惑星の神々が動いて、それぞれソーサリアンを止めに入る！

以降は、ボタンアクション。

それぞれ七惑星神が襲い掛かってくるたびに、バーチャルパッドの十字キー、A/X/Z ボタンが光るので、光っている間にボタンを押す必要がある。

ボタンを押せると、攻撃回避（次第に 2 ボタン、3 ボタンと難しくなっていく）。

回避しそこねると Game Over。

七惑星神＋カーンの攻撃をすべて回避すると…

ソーサリアン	ガルシウス——！
カーン	やめろ————！
解説	王殺しの剣が、ガルシウスの眉間を貫いた瞬間—— 轟と音を立てて、水流のようなものが雪崩れ込んでくる！ そして、ソーサリアンは気を喪った。

[24] エンディング。 ドラゴンとたたかうの洞窟。

ソーサリアン	すべて思い出したぞ。
謎の声	ここで、我われはキングドラゴン＝ガルシスを斃して… そして、ガルシスから王殺しの剣を託されたというわけです。

年齢不詳の女魔法使いが現れる。

ソーサリアン	エスター…あなたなのか。
解説	エスター、ペンタウァ随一の魔法の店のオーナーである。
エスター	そして、この＜ドラゴンの祠＞を歴代国王より預かる闇公爵です。 光と魔導の都ペンタウァの維持に、闇は、カオスは、欠かすことのできない力。 ガルシスはカオスから五象の魔を引き出すと共に、ペンタウァに魔力を供給し続けてきた、いわばペンタウァの力の源だったのです。 なれど、ガルシスの力が強まりすぎれば、ペンタウァが脅かされる。 そこで何十年かに一度、ガルシスを屠る必要があった。 そのために選ばれた冒険者、それがソーサリアンというわけです。
ソーサリアン	そして、斃れたガルシスは＜時の封土＞の中で屈辱の敗北を繰り返して甦り、そしてまた、暗黒竜としてペンタウァに魔力を供給しつづけていたわけか。 誇り高き闇の王が。
エスター	然り。 ところが、今回のソーサリアンは余計なことをしてくれました。 ガルシスにとどめを刺さなかったばかりか、ガルシスから＜時の封土＞のからくりを訊き、あまつさえ王殺しの剣を受け取ってしまった。 私は確かにあなたがたを始末したと思ったのですが…まさか＜時の封土＞に彷徨いこもうとは。 あそこで死ぬはずでなかったガルシウスを斃してしまったことで、＜時の封土＞に閉ざされていた時間は世界に四散してしまいました。 もはや、ペンタウァの魔導の力は喪われたのです。
ソーサリアン	…それで、私たちにどうせよと。

エスター	なにも。 世界に闇の力は散りました。 私にも、この先は判らない—— これからは、ガルシスに統治されない闇が、光と無秩序にまじりあう新たな世界がやってくるのです
エスター	それも良いでしょう。 初代カーン王は、時代によって国も変わらざるを得ないことを知っていた。 また、新たな時代が始まるのです。 ペンタウァもまた…新たな時代に向けて、変わっていかなければならない。 ソーサリアン、あなたたちもね。
ソーサリアン	エスター、あなたは…
エスター	ガルシウスが…解放されて、一番安堵しているのは私なのだよ。 ペンタウァは十分に発展した。 もはやガルシウスの隷属を期待せずとも、ペンタウァは存続できようさ。
解説	いつかエスターの声は、低い男の声に変わっていた。
エスター	クーブラ＝カーンである。 さらばだ、ソーサリアン。そして、ありがとう。 また…会おう。

エスター（カーン）は去っていく。

（End）